NS号(1909年)

日本のモーターサイクル（当時の呼称は自動自転車）の第１号とされるのが 1909（明治 43）年に製作された NS 号で、車名は製作者の島津楢蔵氏の頭文字＝ Narazo Shimazu をとって命名された。島津楢蔵氏は少年時代から、当時、一般庶民ではなかなか手に入れることができなかった自転車に乗り、自動自転車を知る。そうした裕福な家庭に育ったのは、父が貴金属加工製造業の「丹金」に勤めており、会社が事業拡大に成功していたからであった。

奈良県立工業学校紡績科を卒業後、豊田式織機株式会社に就職し、当時、技師長が豊田佐吉氏で自動織機の研究開発に没頭しており、島津氏は試験工場に配属されて織機の試運転を担当していたという。その後島津氏は自らの手で自動自転車の着手を決意し、半年で退職する。丹金は島津楢蔵氏の父が経営を引き継ぎ、楢蔵氏の実弟である銀三郎氏が創立者の山口家の養子に入った。丹金の工場の中に研究所をつくった島津氏は、海外から英文の資料を収集して研究し、製作のため２人の職工も雇用した。

その後、1908（明治 41）年 12 月に、名古屋の開業医で米国製エール号の所有者であった棚橋鎌太郎氏の助言などを受け、試作第１号エンジンとして比較的構成部品が少ない２サイクル空冷単気筒で 400cc 程度のエンジンに取り組み、わずか約３カ月で完成させる。気化器も点火コイルも自作し、点火プラグは京都の陶器店に依頼したという。当初、エンジンは始動したものの、最初はなかなか意図したとおりに作動しなかったが、改良を続け、豊田式織機株式会社から購入した中古自転車に取り付けて試作車を完成させたという。

棚橋鎌太郎氏にもその試作車を見せた後、1909（明治 42）年、予想外に難しかった２サイクルエンジンから、構造的には複雑であるが作動が確実な４サイクルエンジンに着手。試作第２号エンジンは排気量 400cc で空冷単気筒であった。リム、スポーク、タイヤ、チェーン等は輸入品に頼ったが、車体は自転車を改造して完成させた。これが自らの名前を冠した国産第一号自動自転車の NS 号である。この頃から実弟の山口銀三郎氏もテストライダーとして研究に協力し始める。

この後、島津氏は 1912（明治 45）年、開発費用等は父からの資金的な援助を受け、量産車として NMC（Nippon Motor Cycle）号を 20 台余り製作する。250cc 単気筒で、この NMC 号は国産初の量産自動自転車とされるが、まだ人々の国産車に対する認知度が低く、販売には苦労したという。なお NS 号、NMC 号共にベースとなる自転車のペダルが付いている。

1925（大正 14）年には、空冷４サイクル、カム駆動サイドバルブ方式の単気筒 633cc、6.5 馬力、前進３段･後進１段（サイドカーとしての後退用）のエーロファースト（Aero First）号を６台試作した。このエーロファースト号によって、スタイリングも含めて国産モーターサイクルの基本形が完成したといえるだろう。

その後、島津氏は「日本モータース製造所」を設立し、1927（昭和２）年に４サイクル単気筒 250cc サイドバルブ、２段変速のエーロファースト号 C 型を３年間で約 700 台生産する。C 型は、ショックアブソーバー付フォークやバルーンタイヤを採用していた。当時のカタログによれば価格はスタンダードモデルが 395 円（大阪渡し）であり、前照灯等を加えると 85 円高であった。が、採算ベースにはのらなかったため、1933（昭和８）年頃には生産および販売から撤退している。

島津楢蔵氏の手により、1909 年に日本初の自動自転車として誕生した NS 号は、NMC 号を経てエーロファースト号となり、日本のモーターサイクルの礎となる。その後、日本の二輪車産業は世界有数の産業に成長するが、国産モーターサイクルの源流となる NS 号は、歴史遺産車としてふさわしいモデルであり、2024 年（令和６年）に日本自動車殿堂の歴史遺産車に認定されている。

（日本自動車殿堂　刊行「JAHFA No.24」より転載）

ＮＳ号のエンジン分解写真。最初は構造が簡単な２サイクルガソリンエンジンを試作したものの、予想に反して難しく、ＮＳ号のエンジンには構造は複雑だが作動の確実な４サイクルの空冷単気筒400ccに取り組んだ。

NS号の発展型であるエーロファースト号は、モーターサイクルの基本となる形状を有している。フロントフェンダーに“麑島（鹿児島）～東京”の、またタンクには“SHIMAZU BROS.”の文字と“AERO 1”のマークが見える。

●「カラー史料でたどる懐旧の二輪車」の記載について●

■口絵では、カラーで残っている二輪車製品や当時の広告を収録しています。
■二輪車については、排気量別やジャンルに分け、メーカーごとに並べて掲載しています。
■当時の広告に関しては、メーカーごとに製品が登場した年代順に掲載しています。
■エンジン機構の略記号は以下の通りです。

２c：２サイクル、それ以外は４サイクルであり、SV：側弁式（サイドバルブ、Lヘッドともいう）F：F型弁式（吸入OHV：排気SV）、OHV：オーバーヘッドバルブ　OHC：オーバーヘッドカムシャフト　DOHC：ダブルオーバーヘッドカムシャフト。

カラー史料でたどる懐旧の二輪車

50~60ccクラス

川崎航空機工業 カワサキペット B53型 1962年 2c-53cc

三共電器 三共モペット コリー P50型 1960年 2c-49.9cc

田中工業 タスモペット 1960年 2c-50cc

東昌自動車工業 エコー SE型 1959年 2c-49cc

平野製作所 ポペット ST50型 1959年 2c-49.9cc

チャンピオンホーマー50 GA1型 1963年 2c-49cc

丸正自動車製造 ライラックモペット AS71型 1960年 2c-50cc

宮田製作所 アサヒモーペット 1959年 2c-47.6cc

序

1945年（昭和20年）8月、敗戦の焼土の中でゼロからスタートした日本の二輪車産業ですが、17年後の1962年には輸出が20万台に達して、質・量ともに世界一の地位を占めるまでに急成長しました。その後も年を追うごとに輸出量は増大して、1980年（昭和55年）には400万台に達しています。なかでも終戦からの約20年間は、二輪車産業の隆盛にともない、全国に数多くの中小メーカーが乱立して熾烈な競争を繰り広げた時代でした。この厳しい競争の末、1965年（昭和40年）頃までには現行4社にまでメーカー数が淘汰されてしまいました。

本書は戦後の混乱期から先進国に追いつき追い越した激動のこの20年間について、資料が散逸しないうちに整理して記録化しておきたいとの思いから企画したものです。編集にあたっては当時の『モーターファン』誌を中心に、末尾の参考文献やパンフレットに基づいて歴史的経過を解明していったのですが、従来120社とも150社ともいわれていた国内の二輪車メーカーが、社名変更も含めると実に380社余にものぼることがわかりました。そこで本書では、技術的な側面よりも、より多くの写真を記録として収録することに配慮しましたので、写真点数は広告を含めて4130枚余に上る写真史料集になりました。読者の皆様の記憶の中にある“懐かしの一台”の雄姿を、本書の中に見つけていただくことができれば嬉しく思います。

掲載は会社名の五十音順とし、各社別に排気量クラスで分けて年式順を基本としております。仕様と型式認定番号も判明した範囲で記載しました。また、検証の裏付資料として当時の広告は重要ですので多めに収録し、荷物運搬に活躍したサイドカー等のメーカー6社についても収録しました。なお、車名からも検索できるよう車名索引表を、それに、二輪車の発展経過と密接不可分な自動車運転免許制度の変遷経過も一覧表にして添えました。

本書の刊行に際し、まずは、株式会社三栄 取締役・相談役の鈴木脩己氏のご厚意に深く御礼申し上げます。同じく、八重洲出版の創業者酒井文人氏にも感謝申し上げます。酒井氏は長野市中条のご出身で、50年くらい前になりますが、私も愛読していた『モーターサイクル』誌の記者として自動車仲間の所へ陸王の取材に来られました。当時の酒井氏のペンネームは「中条犀聖」となっていました。私の生家は長野県南の伊那谷でしたが、その後中条に移って同郷となり、眼前に広がる犀川と聖山を見て、酒井氏のペンネームに込めた故郷への思いがわかりました。合併して長野市になった今でも、当時の中条村に寄せられた酒井氏の御芳志は語り継がれ、2024年には日本自動車殿堂の殿堂者に選ばれています。さらには、前・東京大学大学院 経済学研究科　客員教授の出水力氏、自動車史考証家の小関和夫氏、本田技研工業で長く二輪広報を務められ、その後ライターとしてご活躍の元広報部の高山正之氏の御三方に巻頭文を頂戴し、重ねて御礼申し上げます。また、三樹書房の小林謙一社長には企画段階からご教授いただきました。編集に関しては中島匡子氏、梶川利征氏、木南ゆかり氏、組版・デザインは近野裕一氏、制作進行は山田国光氏にお世話になりました。そのほか関係者の方々に心から感謝いたします。

なお、執筆にあたっては、当時の各自動車誌やメーカーカタログ、社史などを参考文献としておりますが、諸元の数値につきましては文献により異なる事例が多いため、取捨選択してあります。半世紀以上も昔の時代で資料も少なく、検証が難しい部分もありますので、本書をご覧いただいてお気づきの点がありましたら、該当する資料と共に編集部までご一報を頂ければ幸いです。

筒井幸彦

日本の二輪車図鑑　メーカー五十音図　目次

口絵　カラー史料でたどる

懐旧の二輪車…… 3

巻頭言

前･東京大学大学院 経済学研究科　客員教授　出水　力…29

自動車史考証家　小関和夫…30

ライター／元 本田技研工業 広報部　高山正之…31

序…… 33

戦後 20 年の二輪車の発展経緯…… 34

凡例…… 41

あ

相生モータース…… 53
愛三工業…… 55
愛知機械工業…… 56
愛知スミタ発動機…… 56
相良製作所…… 56
明道鉄工所…… 56
旭自動車…… 56
旭自動車工業…… 56
朝日製作所…… 57
渥見自轉車製作所…… 57
天野工業…… 58
新井自動車…… 58
アンコール製作所…… 60
安全自動車…… 62
イーグル自動車製作所…… 62
石津機械製作所…… 62
井関農機…… 62
市川製作所…… 64
一富士自動車工業…… 64
伊藤機関工業…… 65
伊藤製作所…… 72
伊藤内燃機…… 72
イナバ工業所…… 73
井上モータース…… 74
井益工業…… 74
入野鉄工所…… 74
岩田産業…… 75
岩正製作所…… 76
内田工業…… 76
榮久自動車工場…… 77
エーブ工業…… 77
エーブ自動車工業…… 77
エーブモーター…… 77
SY 軽自動車工業所 …… 84
HM 商会…… 84
エポック発動機…… 84
MSA モーター商会 …… 85
榎村鉄工所…… 85
遠州皮革工業…… 85
会社名不詳（オーイ号）…… 86
大河内鉄工所…… 86
大阪精密工業…… 87
大阪ゼット工業…… 87
大阪ナイスモーター製作所…… 90
大阪内燃機工業…… 90
大阪ポインター…… 90
大沢製作所…… 90
大島機工…… 92
大槻工業…… 93
大槻モータース…… 94
オート大阪工業…… 95
オートビット自動車工業…… 95
大西發動機製作所…… 95
大府産業…… 95
大宮富士工業…… 96
大八洲精機工業…… 98
岡崎工業…… 99
岡商会…… 100
尾上産業…… 100
岡本自転車…… 101
小倉製作所…… 101
鬼タイヤ…… 102

か

笠岡工業…… 102
片倉工業…… 102
片倉自転車…… 102
片山産業…… 110
門井モータース…… 118
加藤鉄工所…… 118
カナミツ電機工場自動車部…… 118
川崎岐阜製作所…… 118
川崎明発工業…… 119
川崎航空機工業…… 124
カワサキメグロ製作所…… 128
川谷工業…… 131
関西軽自動車…… 132
関東商工…… 132
北川自動車工業…… 136
協立自動車工業…… 141
共立発動機…… 141
協和発動機製作所…… 142
協和製作所…… 143
極東製作所…… 143
桐生製作所…… 144
機輪内燃機工業…… 144
金城工業…… 146
久保商会…… 146
熊本製作所…… 146
久米産業…… 147
栗原製作所…… 147
KT 工業研究所 …… 148
京浜精機工業…… 148
光栄工業…… 148
光栄自動車工業…… 149
高研工業…… 150
光明自動車工業…… 151
高陽鉄工所…… 151
宏和自動車製作所…… 152
寿工業…… 152
寿屋…… 152
小西農機…… 152
小林工業…… 152
湖北鉄工所…… 152
小峰バイク工業…… 152
コメットモータース…… 157
近藤国松製作所…… 157
近藤鉄自転車…… 158
コンパスモーター…… 158

さ

坂本自動車整備工場…… 158
サンエッチ製作所…… 159
三輝工業 / 板垣…… 159
三協機械製作所…… 167
三協軽自動車…… 168
三共電器…… 168
三光軽発産業…… 170
三光工業…… 170
三都自動車…… 173
山王自動車工業…… 173
ジェット工業…… 173
ジェットスター…… 174
重高…… 175
嶋エンジン工業所…… 175
島野工業…… 175
ジミー製造…… 175
十條精機…… 176
庄司興業…… 176
城北工業…… 177
昌和製作所…… 177
シルバー製作所…… 185
シルボンモーター製作所…… 186
信愛製作所…… 186
新光自動車…… 186
新光自動車販売…… 186
新光サイクルモーター製作所…… 187
新生興業…… 187
新生モーター…… 187
新日国工業…… 189
シンポ工業…… 189
新三菱重工業…… 190
新明和興業…… 200
新明和工業…… 200
杉本商会…… 211
鈴木工業…… 211
鈴木工業所（浜松）…… 212
鈴木工業所（名古屋）…… 212
鈴木式織機…… 212
鈴木自動車工業…… 212
鈴木清一商店…… 226
スター内燃機…… 226
スミタ発動機…… 226
ゼファーモーター…… 229
ゼブラモーター…… 229
全国自転車連鎖協同組合連合会…… 230
仙石製作所…… 231
センター製作所…… 231
セントラル自動車工業所…… 233

た

大亜モータース商会…… 233
第一発動機…… 233
タイガー商会…… 234
タイガー自動車…… 234
大機モータース…… 235
大成内燃機…… 235
大東製機…… 237
大日本機械工業…… 239
大発工業…… 242
ダイヤモンド商会…… 243
太洋工業…… 243
太陽工業…… 243
太洋内燃機工業…… 243
太洋輪業製作所…… 246
高木商会…… 246
高梨産業…… 249
武弘車輌…… 249
辰和工業…… 251
田中工業…… 251
中央興業…… 256
中央自動車…… 257
中部自動車工業…… 260
中日発動機…… 261
中部モータース…… 261
千代田車輛…… 261
チヨダ発動機…… 262
千代田発動機工業…… 262
千代田発動機製作所…… 263
都築鉄工所…… 263
常定工作所…… 263
ツバサ工業…… 263
DSK 自動車工業 …… 268
寺田製作所…… 268
天馬自動車製造…… 269
天龍自動車工業…… 270
天龍織機…… 271
土井産業…… 272
東亜軽発工業…… 275
東海自動車製造…… 275
東京オートバイ…… 275
東京オリオン工業…… 276
東京発動機…… 277
東京富士自動車…… 292
東京ポインター…… 293
東昌自動車工業…… 293
東販バイクモーター…… 294
東邦機械製作所…… 294
東洋軽自動車…… 294
東洋高発…… 295
東洋発動機製造…… 295
同和商会…… 295
トーマスオウトユニオン社…… 296
十川商事…… 297
十川工業…… 297
特殊工業製作所…… 298
栃木スミタ…… 298
鳥羽工業…… 298
富橋モータース工業…… 299
豊浦製作所…… 299
トヨモータース…… 299

な

内燃機工業（東京）…… 309
内燃機工業（名古屋）…… 311
永井工機…… 311
中島機械工業…… 311
中島発動機…… 312
中島工業…… 312
永田工業…… 313
長本発動機研究所…… 313
名古屋旭オートバイ…… 314
名古屋オートバイ販売…… 314
名古屋二輪自動車…… 314
ナショナルオート…… 316
南星商会…… 317
二光製作所…… 317
西浦製作所…… 317
西尾鉄工所…… 317
西遠商工…… 318
西遠発動機製造…… 319
西富工業…… 319
日米商店…… 319
日輪軽自動車工業所…… 324
日研工業…… 324
日産セントラルモーター…… 324
日産電氣スクーター…… 325
日産自転車…… 325
日産バイクモーター…… 325
日新工舘…… 327
日進自動車工業…… 327
ニッタ軽車工業…… 328
日帝工業…… 328
日東モーターバイク…… 328
日本軽自動車工業…… 331
日本軽自動車商工協同組合…… 332
日本高速機関…… 334
日本小型発動機…… 340
日本スイフト工業…… 341
日本内燃機製造…… 341
日本ナット…… 341
日本バイク工業…… 342
日本発動機…… 342
日本発動機製作所…… 343
日本ミシン製造…… 343
ニューセンター販売…… 343
ノーブルモーター製造…… 343
野田鉄工所…… 343

は

パール号製造販売…… 344
白砂発動機…… 348
花岡車輛…… 348
濱島商店…… 348
浜松スミタ商会…… 350
林動機工業…… 350
隼商会…… 351
原工業…… 353
萬国モータース…… 353
パンサーオート販売…… 353
播電機工…… 355
BFモータース商会 …… 356
ビーエムモーター製作所…… 356
BWバアサイクル …… 358
東日本貿易…… 358
日の丸工業…… 358
平井軽車輛製作所…… 358
平野商会…… 359
平野製作所自動車工場…… 359
福井工場…… 366
福森鉄工所…… 367
藤井商店…… 367
富士オートバイ…… 367
富士機械（前橋）…… 369
富士機械（東京）…… 371
富士機械工業…… 371
富士機工…… 372
富士工業（名古屋）…… 372
富士工業（富士重工業）…… 374
富士自動車…… 375
富士自動車工業…… 382
富士重工業…… 383
不二商會…… 402
富士製作所…… 402
富士精密工業…… 402
藤田鉄工所…… 402
富士発動機…… 409
不二発動機工業…… 410
不二矢自動車工業…… 411
不二矢製作所…… 411
扶桑自動車工業…… 412
ブラザー精密工業…… 413
ブリヂストン自轉車…… 414
ブリヂストンタイヤ…… 414
プレックス工業…… 419
平和発動機…… 419
ヘルス自動車工業…… 419
豊国機械工業…… 426
報国鉄工所…… 428
ホクセン輪業所…… 428
穂高工業所…… 428
堀井冷蔵機械…… 429
本田技研工業…… 430

ま

マーチン製作所…… 452
正則發動機…… 459
松田製作所…… 459
丸一輪業…… 459
マルウチ自転車工場…… 459
丸正自動車製造…… 461
丸善モータース…… 475
丸都自転車…… 475
丸菱工作所…… 476
丸山製作所…… 477
丸米製作所…… 477

萬邦自動車商工…… 477
三浦自転車製作所…… 478
三笠エムロ工業…… 478
三笠技研工業…… 478
三国自動車…… 479
ミシマ軽発工業…… 480
ミシマ内燃機…… 480
瑞穂金属工業…… 487
みづほ自動車製作所…… 488
三田発動機…… 496
三井発動機…… 496
三馬自転車工業…… 496
三越工業…… 496
三星自転車工業…… 496
三治自転車製作所…… 496
ミノル工業…… 496
宮田製作所…… 497
村井商会本店…… 506
村井モータース…… 506
明興紡績…… 506
目黒製作所…… 507
モナークモーター…… 522
モナーク工業…… 522
森銀内燃機工業…… 526
森製作所…… 528

や

八尾鹿発動機再生工場…… 528
八木軽車輛製作所…… 529
梁瀬自動車工場…… 533
山口自転車工場…… 534
山口商店…… 543
山崎内燃機関研究所…… 543
山下工作所…… 545
山下車輛工業…… 545
山田製作所…… 545
大和技研…… 545
ヤマト商会…… 545
大和バイクモータース…… 548
ヤマハ発動機…… 548
山本車輛…… 559
山本製作所…… 559
山輪…… 559
ユタカ製作所…… 560
ユンクマン工業…… 560
ユンケル号モーターサイクル製作所…… 561

よ

横河製作所…… 561
横浜安全自動車…… 561
吉田製作所…… 562

ら

ライン自動車工業…… 562
陸王モーターサイクル…… 562
リツリン産業…… 569
リツリンモーターサイクル研究所… 569
龍禅寺工業…… 570
輪光社…… 571
レギュラーモーター…… 571
レンユー自転車…… 572
ロケット商会…… 574

わ

ワールドタイガー製造会社…… 581
若林自動車工業…… 582
ワキタ商工…… 583
渡辺製作所…… 583
渡辺鉄工…… 584

サイドカー

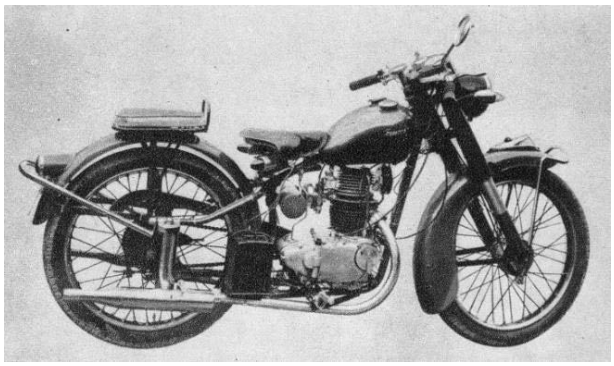
泉経済研究所…… 585
大阪ポインター…… 586
髙木産業…… 586
辰和工業…… 587
ミナト製作所…… 587
安井工業所…… 589

車名索引……590
本書刊行にあたって……598

相生モータース　静岡県浜松市相生町

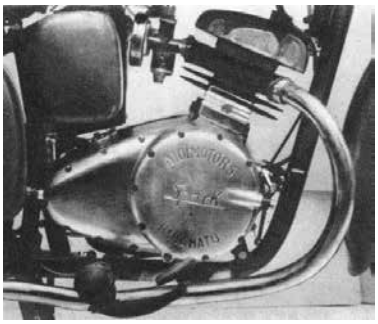
大正末期より相生ボデー、相生モータースで自動車修理業及び自動車ボディを製作。1951年秋から軽オートバイ、スパーク号の研究を開始、翌52年にスパーク号F型を、1953年にはスパーク号L型を発売。

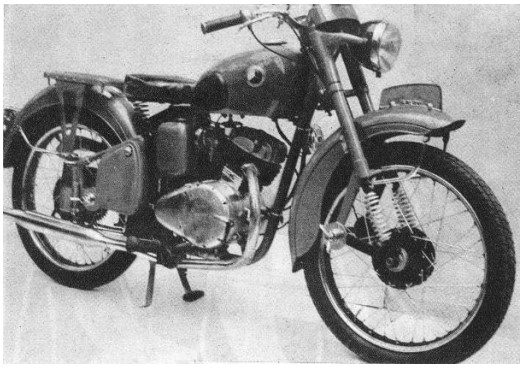
150ccクラス



スパーク号　F型　1952年　L1900mm WB1200mm VW—kg f3 F(Fヘッド：吸入がOHV、排気がSV)−148cc 3.5hp　3速オーバードライブ。

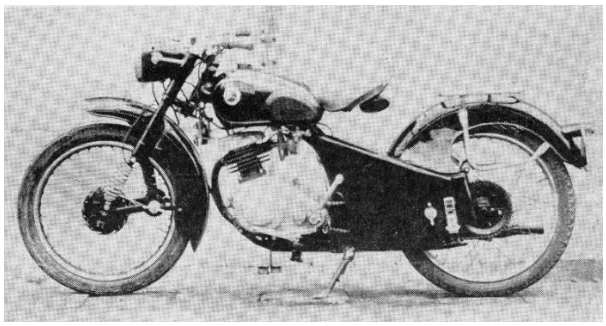
160～220ccクラス

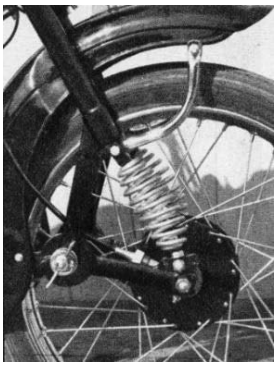




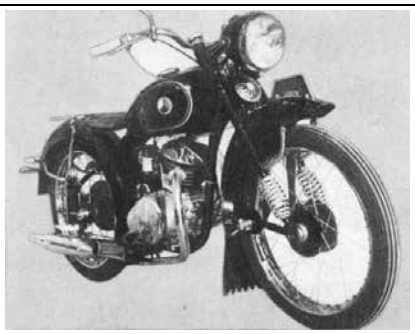
スパーク号　P3型　1953年　L2000mm WB1300mm VW110kg f4 SV−208cc 6hp

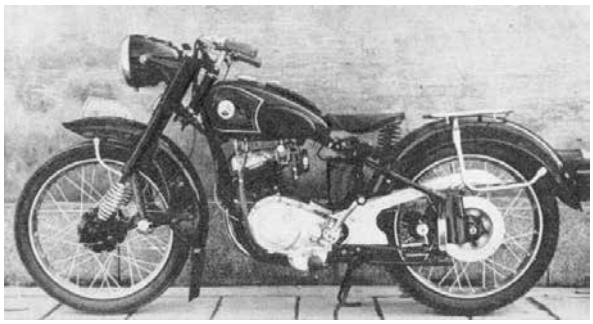
250～300ccクラス



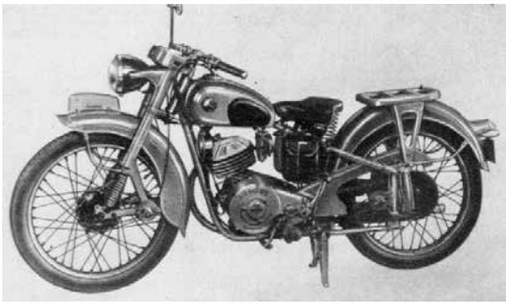


スパーク号　C型　1954年　L—mm WB—mm VW—kg f4 SV−248cc 9hp　前サスペンションはスパーク独自のコイルサス式。



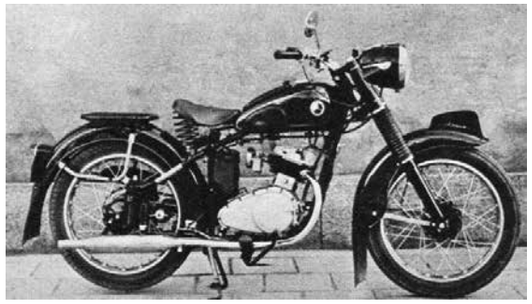


スパーク号　P型　1954年　L2040mm WB1300mm VW—kg f4 SV−248cc 8hp



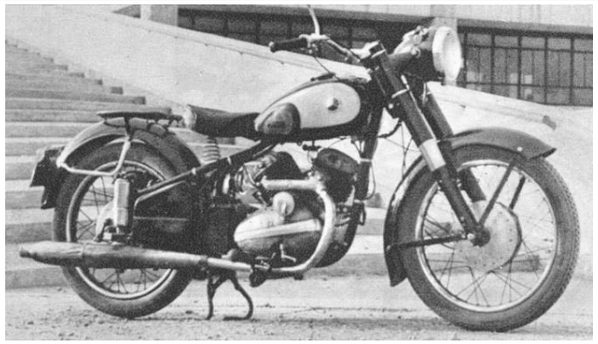
スパーク号 Ⅰ型 1955年

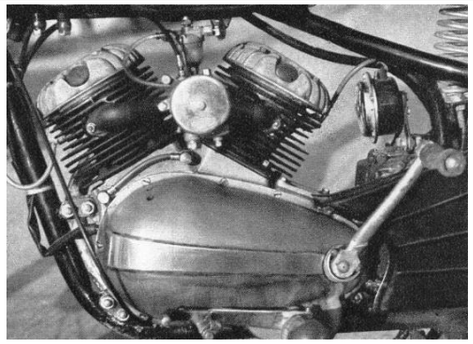
L2040mm WB—mm VW110kg f4 SV-248cc 9hp



スパーク号 Ⅰ型 1956年

L2065mm WB1365mm VW108kg f4 SV-248cc 9hp

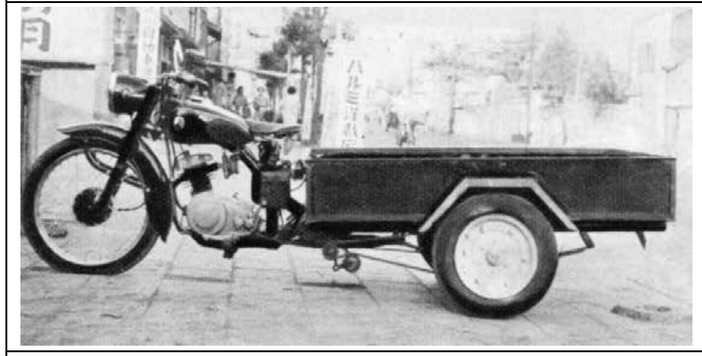


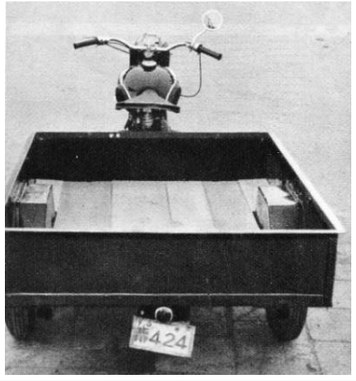


スパーク号 V型 1955年 L2070mm WB1370mm VW135kg f4 SV-2(サイドバルブの V ツイン)-248cc 11hp ハイドロリックタペット採用。

スパーク号 V型 1957年 L2075mm WB1375mm VW140kg f4 SV-2-248cc 13.2hp スイングアームを採用。

三輪車 250～300ccクラス





スパーク号 三輪車 300kg 積 1954年 L2700mm WB1700mm VW—kg f4 SV-248cc 9hp

その他生産車:スパーク号 L型 1953年 SV-200cc

1954年

1956年

1954年

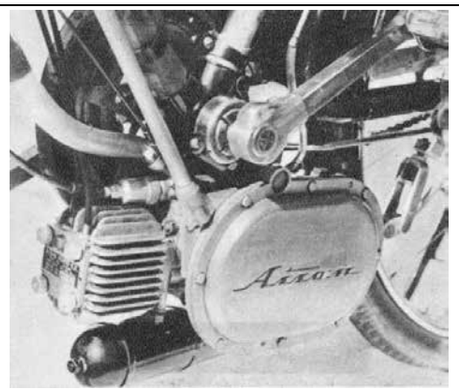
1954年

1955年

愛三工業株式会社 愛知県名古屋市瑞穂区熱田東町

1938年創業。トヨタ自動車、三菱農機(農業用発動機)のキャブレター、みずしま号三輪車のオイルシリンダー、バイク用キャブレターなどを生産。1952年12月、ドイツのローマンモーターと技術提携(超小型高圧縮無電装エンジン)、モア・スピット号の製造を開始。翌年8月からローマン式ディーゼルエンジンを販売したが、低温時の始動性に難があり間もなく撤退した。

25～40ccクラス



アイサンモーター号 1954年 2c-25cc 1hp 40km/h

キッツ号 1954年 ディーゼルバイク

愛三工業のエンジンを搭載したディーゼルバイク。

日本自動車用品ではキッツ号の名称で販売しているが詳細は不明。

安全自動車株式会社　東京都港区赤坂溜池町　ヤマト商会から山王自動車工業を経て安全自動車へ（参照）

生産車：安全ラッキー号　FB型　1957年　2c-200cc [360/32.4.24]

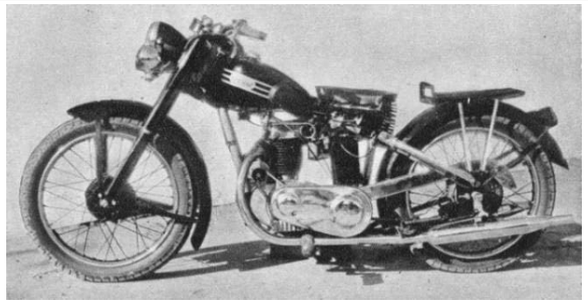
株式会社イーグル自動車製作所　福岡県福岡市薬院大通　生産車：イーグル号　1954年　OHV-150cc

1931年藤壺モーター創立。1949年イーグル自動車製作所に社名変更し、イーグル号発売。20台くらいで終了。のちにマフラー製作の専門メーカーとなる藤壺技研工業（株）。

株式会社石津機械製作所　静岡県浜松市菅原町

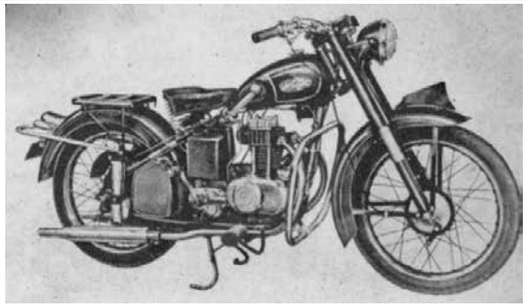
1919年から紡績機械の製作販売を開始、1948年8月15日株式会社に改組、1952年7月軽オートバイの製作を開始。会社名は代表者の石津晴康氏に由来。

150ccクラス



マスコット号　A型　1953年　L2050mm WB1370mm VW115kg f2 OHV-148cc 3.5hp

160～220ccクラス



マスコット号　B型　1954年　L2010mm WB1370mm VW120kg f3 OHV-210cc 8.5hp

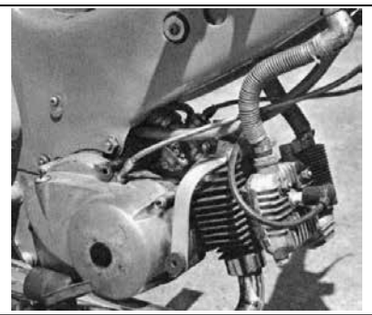
1953年

その他生産車：マスコット号　H型　1954年　OHV-250cc

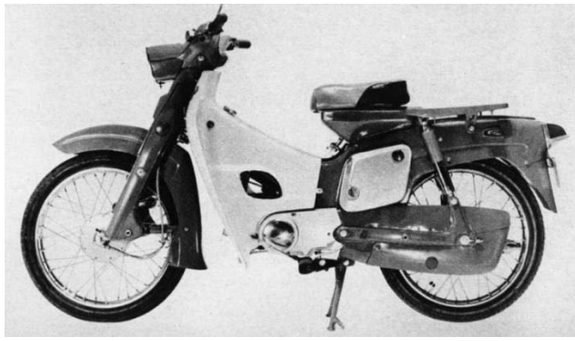
井関農機株式会社　愛媛県松山市八代町

川崎航空機製の水空冷式（頭部水冷）エンジンを搭載、農協系で販売。長本発動機研究所（参照）の空水冷式（胴部水冷）特許を使用。

50～60ccクラス



ヰセキペット50　PA50型　1961年　L1790mm WB1155mm VW71kg f3 <川崎：ME5> 2c-49cc 4ps [Ⅰ-1069/36.5.25]　シリンダーヘッドは水冷式。



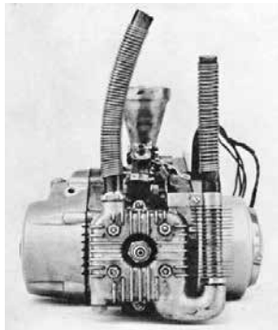
タフ50　1962年　L1790mm WB1155mm VW71.5kg f3 <川崎> 2c-49.9cc 4.2ps

タフ50スポーツ　1962年

L—mm WB1115mm VW71.5kg <川崎> 2c-49.9cc 4.2ps

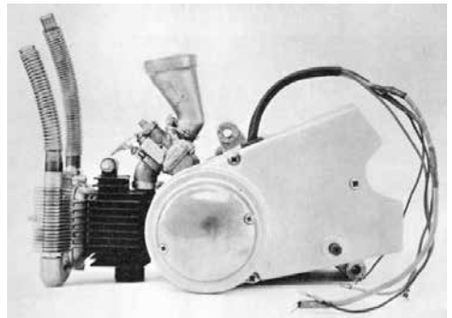
タフ PA55型　1962年　［Ⅱ-1112/37.6.20］2人乗り仕様。

L1790mm WB1155mm VW67kg f3 <川崎：ME55> 2c-52cc 4.2ps



シリンダーヘッド

部分は水冷式。



1961年

1961年

1962年

車名索引

車名索引について

本文中では、機種名に「号」の有無など表記にばらつきがありますが、当時の貴重な資料として、それをもとにしています。また、その車名の製品写真が掲載されている頁を記し、広告の頁は記しておりません（製品写真がなく広告のみ掲載の場合を除く）。

ア

アース号	寺田製作所	268
RSY号	天野工業	58
IMC号	伊藤機関工業	65
アイサンモーター号	愛三工業	55
アイチ	愛知機械工業	56
アイチスミタ号	愛知スミタ発動機	56
アケボノ号	丸一輪業	459
アサヒ号	宮田製作所	499～504
アサヒゴールデンビーム号	宮田製作所	502
アサヒバイク	宮田製作所	499
アサヒモーペット	宮田製作所	497
アツミ号	渥見自轉車製作所	57
アミー	丸菱工作所	477
アライテリヤ号	新井自動車	59
アライテリヤ号	横河製作所	561
アンコール号	アンコール製作所	60、61
アンコール号	太洋輪業製作所	246
安全ラッキー号	安全自動車	62
安全ラッキー号	ヤマト商会	546、547
アント	相良製作所	56

イ

イーグル号	イーグル自動車製作所	62
イーグル号	日の丸工業	358
イーグル号	不二矢自動車工業	411
ヰセキペット	井関農機	62

エ

エイビエイション	名古屋二輪自動車	315
榮久式ベビースミタ号	榮久自動車工場	77
エーブスター号	エーブモーター	77～82
エコー号	東昌自動車工業	293
SHK	東日本貿易	358
Sne号	井上モータース	74
SYフジ号	SY 軽自動車工業所	84
NKB	日本軽自動車工業	331
エポック号	エポック発動機	84
MSA号	MSA モーター商会	85
エムテー号	千代田発動機製作所	263
M60号	村井商会本店	506
エムロ号	ヘルス自動車工業	420～425
エムロマイティ	ヘルス自動車工業	425
エレクター号	播電機工	355
エロイカ	三都自動車	173
エンゼル号	鈴木工業	211
エンゼル号	第一発動機	234
エンゼル号	大発工業	242
エンパイヤ号	若林自動車工業	582

オ

オーイ号	不詳	86
OSW号	大沢製作所	91、92
OMC号	不二商會	402
OK号	岡商会	100
オーストリッチ号	大阪内燃機工業	90
オーツキ号	大槻工業	94
オートサン号	オート大阪工業	95
オートニッティ号	日帝工業	328
オートビット号	オートビット自動車工業	402～408
オートペット号	日本発動機製作所	343
オートポップ	平野製作所自動車工場	364、365
オートライン	ライン自動車工業	562
オオトリ号	大島機工	93
OPK号	大阪ポインター	90
オオヤシマ号	大八洲精機工業	98
オールパワー号	桐生製作所	144
小倉ラッキー号	小倉製作所	101
鬼バイク マスター号	鬼タイヤ	102
オノエ号	日本ナット	341
オノエハッピー	日本ナット	341
オリオン号	中島機械工業	311
オリンパスアリナ	片山産業	110
オリンパスキング	片山産業	112、113、116
オリンパスクラウン	片山産業	115、116
オリンパス号	片山産業	111～113、116、117
オリンパススーパーツイン	片山産業	115
オリンパススピードツイン	片山産業	111
オリンパスツイン	片山産業	114
オリンパスマックス	片山産業	114
オリンピアン号	杉本商会	211

カ

ガスデンFMC	富士自動車	379、380
片倉オート	片倉自転車	103～109
片倉オートセルツイン	片倉自転車	107、108
かもしか号	東京発動機	282
カワサキ	川崎航空機工業	125～127
川崎バイクスクーター	川崎岐阜製作所	118、119
カワサキペット	川崎航空機工業	124
カワサキメグロ	カワサキメグロ製作所	129、130
カワサキメグロスタミナ	カワサキメグロ製作所	129、130
カワサキメグロレンジャー	カワサキメグロ製作所	128、129
カントーエース	関東商工	132
カントーシックス	関東商工	132
カントースーパー	関東商工	135
カントースーパーデラックス	関東商工	134
カント―スタンダード	関東商工	133
カント―デラックス	関東商工	133、134
カントーレーサー号	関東商工	132、133

キ

キッツ号	愛三工業	55、56
キテイ号	中央自動車	257
キテイ号バンタム	中央自動車	258
キャプテン号	東洋高発	295
キャブトン	みづほ自動車製作所	490～495
キャリー号	ワキタ商工	583
協發キング号	協和発動機製作所	142、143
極東/キョクトウ号	極東製作所	143
巨人号	小峰バイク工業	153
キリン号	機輪内燃機工業	144、145
キリンコメット	機輪内燃機工業	146
キングスター号	三井発動機	496
キングダイナ	大宮富士工業	96
キングモーペット	三輝工業 / 板垣	163、165

ク

クイーンサンライト	三輝工業 / 板垣	162、163
クイーンモーペット	三輝工業 / 板垣	164、165
クヰーンラビット	富士工業 (富士重工業)	374、375
クインロケット	ロケット商会	574～580
クインロケットアイリス	ロケット商会	574
クインロケットリペア	ロケット商会	579
クメサンケイ号	久米産業	147
クライス号	ニッタ軽車工業	328
クライドラー	大日本機械工業	240
クラウンキッド	扶桑自動車工業	412
クラウン号	扶桑自動車工業	412
クリッパー号	濱島商店	348、349
クルーザー	昌和製作所	182、183
クレーン号	伊藤内燃機	72
くろがね	日本内燃機製造	341
クロップ号	機輪内燃機工業	144

ケ

K.H.K	湖北鉄工所	152
京浜	京浜精機工業	148
ゲール	新三菱重工業	190
ゲールペット	新三菱重工業	190

コ

コーケン号	高研工業	150、151
コースタージェット	日本発動機	342、343
コーヨー号	高陽鉄工所	151
ゴーリキ号	輪光社	571
ゴールデンデアー号	永田工業	313
ゴールドスター	スター内燃機	226
コーワ号コロネット	宏和自動車製作所	152
コトブキ	寿工業	152
小西	小西農機	152
コミネ	小峰バイク工業	152、154、155
コメット号	コメットモータース	157
コリー	金城工業	146
コレダ号	鈴木自動車工業	217～224
コレダセルツイン	鈴木自動車工業	221、222
コレダツインエース	鈴木自動車工業	223
金剛	久保商会	146
金剛	富士機械	369～371
コンドル号	大阪精密工業	87
コンパスモーターバイク	コンパスモーター	158

サ

サイクロンモペット	仙石製作所	231
サハリロのハヤブサ号	寿屋	152
サファイヤ号	城北工業	177
サンエッチ号	サンエッチ製作所	159
サンエッチ号	森銀内燃機工業	526、527
サンキュー	丸正自動車製造	462
SANKYO（サンキョー）号	三協機械製作所	167
三共マイペット	三共電器	168、170
三共モペットコリー	三共電器	169
サンケイ（K.K.K）号	門井モータース	118
サンコー号	三光軽発産業	170
3・3・3号	島野工業	175
サンダー号	天馬自動車製造	269
サンダー号	渡辺製作所	583、584
サンヨー号	八木軽車輛製作所	529～532
サンライズ号	平井車輛製作所	358

本書刊行にあたって

十数年前のことになりますが、弊社の著者である浅井貞彦先生から電話があり、今後の出版企画に協力してくれそうな人がテレビ番組に出演していたから……と、その録画をご提供いただきました。出演者は筒井幸彦氏という方で、番組では警察官として在職中に自動車の歴史やモデル変遷を長年調べて研究し、多くの資料を収集・整理してファイルされていること、長野県内で発生したひき逃げ事件の解決などで筒井氏の資料が役に立っていることなどが語られていました。また、今後はその膨大な資料を活用してまとめてゆきたいとも話されていたので、私は筒井氏に連絡を取ってみることにしたのです。幸いにして筒井氏は、やはり弊社の著者でもある日野自動車の元副社長鈴木孝先生の知人でもあり、こちらの要望などをお伝えし、お目にかかることになりました。その際に、筒井氏から収集されている膨大な資料のことなどをうかがい、のちにその貴重な資料を活用して『国産バス図鑑』や『いすゞトラック図鑑』として、珍しい商用車の図鑑をまとめることができました。

私は以前から日本の二輪車メーカーの歴史を整理してまとめておきたいと考えていました。かつて、英国のヒストリアンとして二輪・四輪の著書を多く持つブライアン・ロング氏の案内で、英国コベントリーにほど近い二輪車の博物館を見学に行った際に、アリエル、ベロセット、マチレスなど今では無くなってしまったメーカーの製品が展示されていましたが、その歴史を調べても日本ほど多くの会社や製品の種類はありません。1950 年前後から日本で誕生した二輪車メーカーはその数も製品量も圧倒的であり、のちに世界有数の二輪車メーカーとなる会社も含め、日本の基幹産業である国産二輪車のルーツを記録として残しておくことは大切なことだと感じるようになりました。

筒井氏は二輪車の資料も数多く所有されておりましたが、筒井氏のご提案により、当時の歴史を紐解くにあたり『モーターファン』誌が最も信頼できる最善の資料であるという結論になりました。私は三栄書房（現 三栄）の代表者であった鈴木脩己氏に打診をして、筒井氏による二輪車の歴史書の企画とその構想などを説明し、資料として『モーターファン』を活用させていただくことをご了解いただきました。

200 冊を超える『モーターファン』に掲載されている二輪車メーカーの広告をそれぞれスキャニングして、製品を会社別に整理するという筒井氏の編集作業は、当初予定した以上の作業になりました。その期間は 3 年ほどにもおよび、これらの作業は筒井氏の情熱がなければ決してできなかったことです。近年は当時の二輪車メーカー数に関しては 100 社以上とか 130 社以上など、大まかな数字で語られていましたが、20 年ほど前にホンダコレクションホールの方が調べ、教えていただいた 1950 年代の二輪車メーカー数は 278 社でしたから、本書はその数を大幅に超えています。

二輪車メーカーの中には「5 台（五大）メーカー」と呼ばれ、ほんの僅かな台数しか生産できなかった会社も含まれています。しかし、多くの二輪車メーカーが有志によって誕生し、欧米を上回る様々な機種を世に送り出した史実は、今につながる日本の優れたモノづくりの一片を物語っていると言えるでしょう。

本書は、前記した通り弊社の企画を理解してくださった鈴木脩己氏はもちろんのこと、膨大な時間をかけて手間を惜しまず整理作業を続けてくださった筒井幸彦氏の努力がなければ完成できませんでした。篤く御礼を申し上げます。

多くの二輪車メーカーが全国各地に誕生した時代は、経済的にも不安定な時代であり、会社が倒産しても代表者が交代することによって再出発した例もあります。同時にその理由は様々だと思いますが、年度によって社名を「興業」から「工業」に漢字を変更して社名登記を変更しているケースもありました。さらに資料によっては、スペックが記されていないもの、機種名に「号」が付いていたり、付いていなかったりして正確なところは不明な点も数多く残っておりますのでその点はご容赦の上、ご活用ください。最後になりますが、本書が日本の二輪車の歴史に一石を投じる史料となり、今後さらに考証が進み、その歴史が明らかになってゆくことを願っています。

三樹書房　小林謙一

筒井幸彦（つつい・ゆきひこ）

1945年長野県生まれ。飯田高等学校卒業後、長野県警察官として主に交通特捜部門を担当。警察退官後は収集してきた自動車関連史料の考察、研究に携わる。
2003年警察功労章受章、2017年瑞宝双光章受章。
著書に『国産バス図鑑　1945-1970』『復刻版1960年代のバス』『いすゞトラック図鑑　1924-1970』（いずれも三樹書房）がある。

日本の二輪車図鑑

1945年（昭和20年）－1965年（昭和40年）

編著者　筒井幸彦
発行者　小林謙一
発行所　三樹書房

URL　https://www.mikipress.com

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-30
TEL 03(3295)5398　FAX 03(3291)4418

印刷・製本　モリモト印刷株式会社

©Yukihiko Tsutsui/MIKI PRESS　三樹書房　Printed in Japan

※ 本書の一部または全部、あるいは写真などを無断で複写・複製（コピー）することは、法律で認められた場合を除き、著作者及び出版社の権利の侵害になります。個人使用以外の商業印刷、映像などに使用する場合はあらかじめ小社の版権管理部に許諾を求めて下さい。落丁・乱丁本は、お取り替え致します。